



しまくとぅば関連商品自販機

～ 24時間365日 いつでも「しまくとぅば」と島唄～

しまくとぅばを観光資源として活用

しまくとぅば関連商品自販機を設置しませんか！

沖縄しまくとぅば放送局

●琉歌「心の御守り」自販機

琉歌！心の御守り

琉球王朝時代の先人達は物の貧しさを心の豊かさで補い潤いに満ちた社会を創ってきました。貧困に喘ぎながらも人間としての優しさ労りを忘れず心の支えとし、世渡りの糧としてきました。彼らの処世訓は、琉歌に詠みこまれ、沖縄空手と共に受け継がれてきました。数百年の風雪に耐えてきた先人達の言葉は現代社会を生き抜く知恵として、人生の指針として、心のお守りになるはずです。



●名護親方いろは歌自販機

沖縄47ヶ所めぐり六諭の旅！

自然と肝心に触れて、心の在り方を感じる旅

琉球王朝時代に名護親方が中国から持ち帰った道德書、六諭衍義を琉歌に詠んだ琉球いろは歌を観光資源として活用して観光客の増大と収益向上に寄与しようという企画です。

沖縄の観光施設47ヶ所に琉球いろは歌自販機を設置し、訪ねて歩くことで、人が人として必要な心の在り方を考える旅であります。



●首里城掛け軸自販機 首里城・王家の伝言

首里城を住まいとした国王が詠んだ40首の琉歌から心に響く歌を掛け軸に！

沖縄はかつては琉球国とよばれ、独自の歴史文化を築いていました。先人達は物の貧しさを心の豊かさで補い潤いに満ちた社会を創ってきました。貧困に喘ぎながらも人間としての優しさ労りを忘れず心の支えとし、世渡りの糧としてきました。

琉球王家の処世訓や営みは琉歌に詠まれて今日まで伝えられてきました。数百年の風雪に耐えてきた国王達の言霊が、現代社会を生きる私たちに、大切な何かを伝えてくれるでしょう！

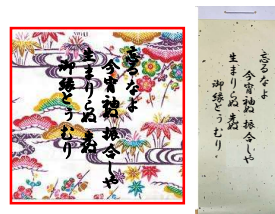


●琉歌慕情自販機 琉歌慕情 恋歌

びんがたり ゆうか ちち うんげゆ うむ どうる
紅型琉歌巾着でい貴方ぬ慕情い届きら！

沖縄はかつては琉球国とよばれ、独自の歴史文化を築いていました。先人達は物の貧しさを心の豊かさで補い潤いに満ちた社会を創ってきました。貧困に喘ぎながらも人間としての優しさ労りを忘れず心の支えとし、世渡りの糧としてきました。島の大地に根付き素朴で力強く、ひたむきに愛を歌ってきました。

彼らの感性は、琉歌に読み込まれて伝えられてきました。魂の砂漠化が叫ばれる今日、貴方の心を掻き立てる琉歌恋歌を、紅型のハンカチに包んで届けることで、心の潤いは豊かになるでしょう。





しまくとぅばラジオ自販機

～ 24時間365日 いつでも「しまくとぅば」と島唄～

しまくとぅばを観光資源として活用

しまくとぅばラジオ自販機を設置しませんか！

沖縄しまくとぅば放送局



●飲料自販機

環境美化 地球温暖化防止

本来、各飲料メーカーの主要アイテムや売れ筋商品を販売するためには、自動販売機を数台並べる必要があります。弊社のフルライン自販機では、1台の自動販売機の中に「複数メーカーの商品」をセットすることができ、今一番旬な商品を選択して提供できます。



各メーカー売れ筋人気商品をこれ一台に！

自販機が多いと景観を悪くする



売上はかわらない



琉球新報 2020（令和2）年9月18日（金）掲載

（しまくとぅばの日）

「しまくとぅばを日常に」



琉球国王が詠んだ琉歌の掛け軸を販売するしまくとぅばラジオ自販機をPRするクレストの池原稔代表（左）と照屋志樹さん＝8月、北谷町北谷

クレスト社（嘉手納町）

琉歌流れる自販機設置

「楽しい行く中に慎まななみく」。焦げ茶色の見慣れない自動販売機から、突如として琉歌が流れてくる。しまくとぅば漫談大会などを主催するクレスト（嘉手納町、池原稔代表）が、24時間365日しまくとぅばと触れあえる自販機を県内に約40台設置している。その名も「しまくとぅばラジオ自販機」だ。18日は県が条例で定めた「しまくとぅばの日」。しまくとぅばの継承に向けた取り組みが県内で広がっている。

クレストは2014年、その後、県内各地に琉歌が流れるしまくとぅばの番組を放送する自販機の設置を始めた。販ネットラジオ「沖縄しまくとぅば」売するのは雑貨や琉歌が書か「うば放送局」を開設した。それだ三掛け軸など。琉歌を

自販機の硬貨投入口などには、しまくとぅばが記載されるなど、さまざまな工夫が凝らされている。池原代表は「日常の中に当たり前にしまくとぅばがある環境をつくること。耳に、目にする機会を増やしていけば大切な言葉の文化を残していける」と思いを込めた。（新垣若菜）

昨年10月31日の首里城焼失後は、琉球国王や王家関係者が詠んだ琉歌40首が流れる自販機「首里城・王家の伝言」を設置した。現在は北谷町北谷のおおばたばこ駐車場内、沖縄市の沖縄こどもの国、名護市の轟の滝公園など3カ所にある。

詠み上げる音声が、常に自販機から流れている。名護親方のいろは歌や琉球王国時代の女流歌人・恩納ナビーの歌など、種類は多種多様だ。琉歌を詠む声の主は、地域の老人会の会員たち。池原代表は「喜んで協力してくれている」と笑う。